新しい学習指導要領とこれからの修学旅行

『主体的・対話的で深い学び』実現へ

中学校での新しい学習指導要領が2018年度からの移行期間を経て、21年度から全面実施される。今回の改訂では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が大きなポイントだ。特別活動の一環である中学校の修学旅行で、新しい学習指導要領をどう反映させていけばいいのか。全国修学旅行研究協会理事長の岩瀬正司氏を進行役に、東京都中央区立佃中学校校長の池田富太郎氏と茨城県日立市立助川中学校校長の鈴木洋一氏に語り合っていただいた。

（開催場所＝全国修学旅行研究協会本部△東京都千代田区▽）

修学旅行こそ深い学びの機会
子どもの思考をアクティブに
生徒指導の三つの機能を生かす

岩瀬（＝進行役）「おと教育研究会の副会長と 良いという話だった」
一人ずつ簡単に自己紹介 いう立場で関東地区公立 「『アクティブ・ラー
を兼ねながら、新しい学 中学校修学旅行委員会の ニング』というのが一頃
習指導要領をどう捉える 会長も務めている」 はやったが、それが新し
かお話しいただきたい」 「特に修学旅行に特化 い学習指導要領では『主
池田「中央区立佃中学 した実績と言えば、30数 体的・対話的で深い学び』

池田氏

校は佃煮の発祥地である 年前に勤務していた学校 ようなことを見越して、
佃にある。東京都中学校 で私が班別分散行動を提 修学旅行でさまざまな能
長会の中に修学旅行対策 案して、恐らく関東では 力を育てる」
委員会があり、私は、そ 本校が最初に実施した。 岩瀬「どこを訪問する
の委員長を務めている」 当時の修学旅行は生徒全 かは修学旅行の大きな条
「いつも学習指導要領 員が3日間とも同じ行程 件になってくるが、その
が新しくなる時に感じる だったが、それでは特別 訪問地の設定はどうか」
のは、言葉が先に行き過 活動が狙いとしている目 鈴木「日立市の中学校
ぎている。変わることに 的を達成するには十分と の場合は連合体輸送を行
は敏感なのだが、変わら は言えないという思いが っているので、現在の関
ないこと、つまり、大切 あった」 西方面から本校単独で来
にしなければいけないこ 「今回、学習指導要領 年から北陸などに変更す
とに対しては鈍感という が改められているが、私 ることは難しい。市の学
気がする。学習指導要領 としては池田先生と同じ 校長会などで校長、ある
が大きく変わったと言い ように、若干、表現が変 いは修学旅行委員会の委
ながらも、生きる力を育 わっているところはある 員長がリーダーシップを
成することについては変 けれども綿々とやること とって、関西以外ではこ
わっていない。私は、従 はそんなに変化はない。 ういった交流学習ができ
来通り修学旅行でしかで 特別活動の本質を十分に るというところを旅行会
きないもの、それから、 見ると子どもの行動がア 社と共に考えていくとい
ほかの体験との違いとい クティブになっていくと う取り組みは今後、必要
うものにクローズアップ 捉えがちだが、そうでは 性が増してくる」
して、子どもたちと共に なく、教師側が刺激をう 岩瀬「首都圏の中学校
良い修学旅行を作ってい まく与えることによって の場合、ほぼ9割が新幹
きたいと考えている」 子どもたちの思考をアク 線を使って、関西方面と
鈴木「茨城県日立市立 ティブにする。例えば同 いうパターンが一つ出来
助川中学校の校長になっ じ班別行動であっても、 上がってしまっている」
て3年目。県の学校長会 子どもがいろいろなこと 池田「一極集中してい
という言葉に置き換えら を考えて結果を出してい るので、修学旅行対策委
れている。この言葉をど けるようにしたい」 員会としては、できれば
う捉えるか整理したい」 鈴木「『自己決定の場 いろいろな訪問地にした
池田「主体的・対話的 を与える』『自己存在感 いというのがここ数年の
で深い学び、この言葉を を与える』『共感的な人 動きだ。北陸新幹線の連
きると考えている」 間関係を育成する』とい 合体輸送が始まったり、
岩瀬「協会としては修 う、これまで私たちが実 北海道新幹線の連合体輸
学旅行こそ主体的・対話 践してきた生徒指導の三 送が可能になったりして
的で深い学び、そのもの つの機能を十分に生かせ いる。先ほど言ったよう
だという認識でいる。子 ば、主体的・対話的で深 ある」
ども自身が修学旅行に行 い学びについては、その
くわけだからまさに主体 目的を達成することがで
的だ。先生や友だちとの きる。
対話があるし、現地に行 鈴木「まず、その学校
っての現地の人々との対 の3年間の宿泊的行事の
話がある。歴史的な建造 系統性を図ること。その
物などを見れば歴史上の 上で1年生、2年生それ
過去の人との対話もあ ぞれの発達段階に応じて
る。深い学びは習得、探 話し合いで合意形成がで
究、活用などいろいろな きるような状態を目指す
面で汎用されていく」 ということがポイント
「修学旅行で主体的・ になる。次に、学級経営
対話的で深い学びを実践 や教科経営で学級を十分
していく上での課題は何 に耕す。そういったこと
か」 を日頃から意識した取り
鈴木「まず、その学校 組みが肝要になってく
の3年間の宿泊的行事の る」
系統性を図ること。その 池田「私も鈴木先生と
上で1年生、2年生それ 同じ意見だ。ゴールを目
ぞれの発達段階に応じて 指すとか、人間としての
話し合いで合意形成がで 生き方をどうするかとい
きるような状態を目指す うことなので、その中で
ということがポイント 修学旅行がどう位置づけ
になる。次に、学級経営 られていくか。もっと言
や教科経営で学級を十分 えばメタ認知能力を高め
に耕す。そういったこと ていくなかで自分はここ
を日頃から意識した取り で何をどう学んでいくの
組みが肝要になってく かを考えさせていくこ
る」 と。だから、ある面で言
池田「私も鈴木先生と えば教育目標の達成につ
同じ意見だ。ゴールを目 ながっていく」
指すとか、人間としての
生き方をどうするかとい
うことなので、その中で
修学旅行がどう位置づけ
られていくか。もっと言
えばメタ認知能力を高め
ていくなかで自分はここ
で何をどう学んでいくの
かを考えさせていくこ
と。だから、ある面で言
えば教育目標の達成につ
ながっていく」

岩瀬氏

鈴木氏

きちっとした事前・事後学習を
体験活動は自分で考えながら
土曜授業で保護者に活動報告

岩瀬「修学旅行に関し 出すものだ。教師が全部 校を開くという目的なの 開催している。プレゼン ち3年はこういう活動を
て学校で大きな課題とな やるのは大変なので、放 だが、その時間帯の使い は全員ができるのではな やったので、2年生、1
っているのは授業時数と 課後なども使いながら授 方を工夫している。保護 く、毎年、コンクールで 年生がさらにそれを発展
の兼ね合いだ。一頃のよ 業時間以外のところで訪 者に対して修学旅行では 発表者を決めている。さ させるには何に注意した
うに事前指導、事後指導 問先の行政や添乗員の人 五感を通してこんなこと らにいいのは文化祭でプ 方がいいという発表も最
に時間をかけられなくな たちなど専門家からガイ を勉強してきたというア レゼンすることだ」 近は行っている」
ってきている。事後指導 ダンスを聞くという方法 ウトプットの時間として 鈴木「文化祭のあり方 岩瀬「昨今、修学旅行
もせいぜい帰ってきて感 もある。きちんとした事 うまく活用することがで が変わってきた。一昔前 では体験活動が重視され
想文を書かせておしまい 前学習、事後学習だけで きる」 はお楽しみ型文化祭だっ ている。体験活動を実施
という感じだ。新しい学 はなくて、そういったイ 池田「鈴木先生の方か たが、校長として、学校 する上での課題は」
習指導要領の主体的・対 ンフォーマルな時間を生 らお話しがあったが、プ として何を求めるかとい 池田「何かすればいい
話的で深い学びを実現す み出していけばいい」 レゼンするということを うところで、学習性の高 では、体験活動は豊かな
る以上は事前・事後指導 鈴木「日立市では年間 やっている。中央区は土 い文化祭になってきた。 ものにならない。例えば
できちっとした学習をや 3回、土曜日に授業を実 曜授業が年間10回ある。 しかも、生徒がそれを楽 物を作る場合、うまく作
らなければいけない」 施している。保護者との その時に3年の保護者を しんでいるところがうれ れるようにもプログラ
池田「授業時数は生み 触れ合い、また地域に学 対象に修学旅行報告会を しい。修学旅行で自分た ムができている。そうで

はなくて、子どもが自分で完成品を見て、どうしたらこのように作れるのかを考えながら作業していく。それから、行ってただ単に教えてもらうだけではなくて、伝える。例えば、『佃は佃煮の発祥地だ』と町や学校の宣伝をして、地元の人たちと話す。こういった能動的な行動によって体験活動の質が高くなる」

鈴木「多くの県が体験的プログラムのガイドラインを作成しており、それが非常に充実している。だが、茨城県にはこういったプログラムがあることを各校の校長が知り得る場が不足していた。この豊富なプログラムを活用し、全国の中学2年生を対象にした社会体験学習、職場体験の延長線上でそれをさらに進展させたような取り組みは十分に可能性があるという希望を持っている」